



本プレスリリースは厚生労働記者会、厚生日比谷クラブ、重工業研究会、本町記者会に配布しております。

2010年10月20日

□報道関係各位□

「痛み」に関する大規模調査 「Pain in Japan 2010」実施

- (1) 日本成人の慢性疼痛保有率は約 22.5%と推計
- (2) 慢性疼痛をもつ患者の痛みは、7割が適切に緩和されず

ムンディファーマ株式会社（日本 本社：東京都港区、社長：木村龍也、以下「ムンディファーマ」）は、2010年6月～7月にかけて、慢性的な痛み（慢性疼痛*）をもつ患者の割合、およびその治療実態/患者意識を把握するため、20歳以上の男女（1次調査 41,597名、本調査 5,998名）を対象とした大規模調査を実施しました。

その結果、日本成人の4.4人に1人にあたる約2,315万人が慢性疼痛を有していることが明らかになりました。また、慢性疼痛をもつ患者の痛みは、7割が適切に緩和されておらず、2004年の調査**から6年経た今も「痛み」が適切にコントロールされていない現状が明らかになりました。

主な調査結果は以下の通りです：

- 慢性疼痛の保有率：日本成人の4.4人に1人は慢性的に「痛み」を抱えている。慢性疼痛を保有する患者数は成人人口の22.5%に相当し、約2,315万人存在すると推計される。

慢性疼痛患者の実態

- 痛みの病名・症状：慢性疼痛の原因となっている病名・症状は、腰痛（55.7%）、四十・五十肩、肩こり（27.9%）、頭痛・片頭痛（20.7%）
- 痛みに関する考え：約7割の人が、やる気の喪失、精神的なストレスを感じている。
- 痛みによる日常生活の中断：過去6ヵ月間で痛みのために休んだ日数は、仕事 9.8日、学校 6.5日、家事 17.9日（1日以上休んだ人における平均日数）。
- 痛みは緩和されているか：慢性疼痛をもつ患者の多くは、満足いく程度に痛みが緩和されていない（痛みが満足いく程度に緩和されているかの問いに対し、「はい」との回答は29%）。
- 治療意向：約7割の人が「新しい治療があれば試してみたい」と考えている。



MUNDIPHARMA K.K.
6F Shinagawa Grand Central Tower
2-16-4 Konan Minato-ku
Tokyo 108-0075, Japan
Tel. +81 3 6718 2350
Fax. +81 3 6718 2351

- * 本調査における慢性疼痛の定義：いずれかの疾患で、「最初に痛みを感じてから現在までの期間が 3 ヶ月以上」「慢性的な痛みを一番最近感じた時期が 1 ヶ月以内」「慢性的な痛みの頻度が週 2 回以上」「慢性的な痛みの度合い（10 ポイント）が 5 ポイント以上」に該当するもの
- ** 服部政治ほか：日本における慢性疼痛を保有する患者に関する大規模調査：ペインクリニック 25（11），1541-1551, 2004
ムンディファーマ プレスリリース：http://www.mundipharma.co.jp/topics/pressrelease/index_2.html

ムンディファーマについて

ムンディファーマ株式会社は、日本において疼痛治療を専門領域とする製薬会社です。未だ満たされていない高い医療のニーズある領域で革新的な治療薬を開発し、いち早く医療現場に提供していくことで、患者さんの生活の質の向上と延命に貢献することをミッションとして掲げております。このような治療薬を継続的に提供し、医療の進歩に貢献できる会社になることをビジョンとしております。

詳細については、こちらをご参照ください。<http://www.mundipharma.co.jp/index.html>

プレスセミナー予定

ムンディファーマでは、報道関係者の皆様を対象に、同調査結果に関する追加のご報告と、専門医による慢性疼痛に関する講演を全 4 回のプログラムで予定しております。詳細が決定次第、改めてご案内申し上げます。

＜本件に関するお問い合わせ先＞

ムンディファーマ株式会社

マーケティング本部 PR/マーケティングコミュニケーション：安藤

〒108-0075 東京都港区港南 2-16-4 品川グランドセントラルタワー6 階

TEL：03-6718-2979 FAX：03-6718-2594 E-mail: Kaoru.Ando@mundipharma.co.jp

ムンディファーマ株式会社 「痛み」に関する大規模調査 「Pain in Japan 2010」

- 調査概要
- 1. 調査地域：日本全国
- 2. 調査対象：20歳以上の男女
- 3. 調査方法：インターネット調査（実施機関・ニールセン）
- 4. 調査設計：日本における慢性疼痛の実態調査（本調査）では、都道府県（9）×年代（7）＝63区分の n=6,300（各セグメント n=100）、1次調査のサンプルサイズでは前回調査の「慢性疼痛保有者」出現率（13.4%）を参考に n=47,000 をそれぞれ回収目標とした。全回収数から一次調査、本調査の回収目標数をそれぞれ無作為に抽出した。
- 5. サンプルサイズ：一次調査 41,597名 / 本調査 5,998名
- 6. 本調査における慢性疼痛の定義：
（病気、健康上の理由により）現在まで3ヵ月以上の疼痛がある。
「最初に痛みを感じてから現在までの期間が3ヵ月以上」
「慢性的な痛みを一番最近感じた時期が1ヵ月以内」
「慢性的な痛みの頻度が週2回以上」
「慢性的な痛みの度合い（10ポイント）が5ポイント以上」
- 7. 実施期間：2010年6月～7月

● 調査結果概要

■保有率：日本成人の4.4人に1人は慢性的に「痛み」を抱えている。

慢性疼痛を保有する患者数は成人人口の22.5%に相当し、約2,315万人存在すると推計される。

【慢性疼痛保有率の拡大推計】：

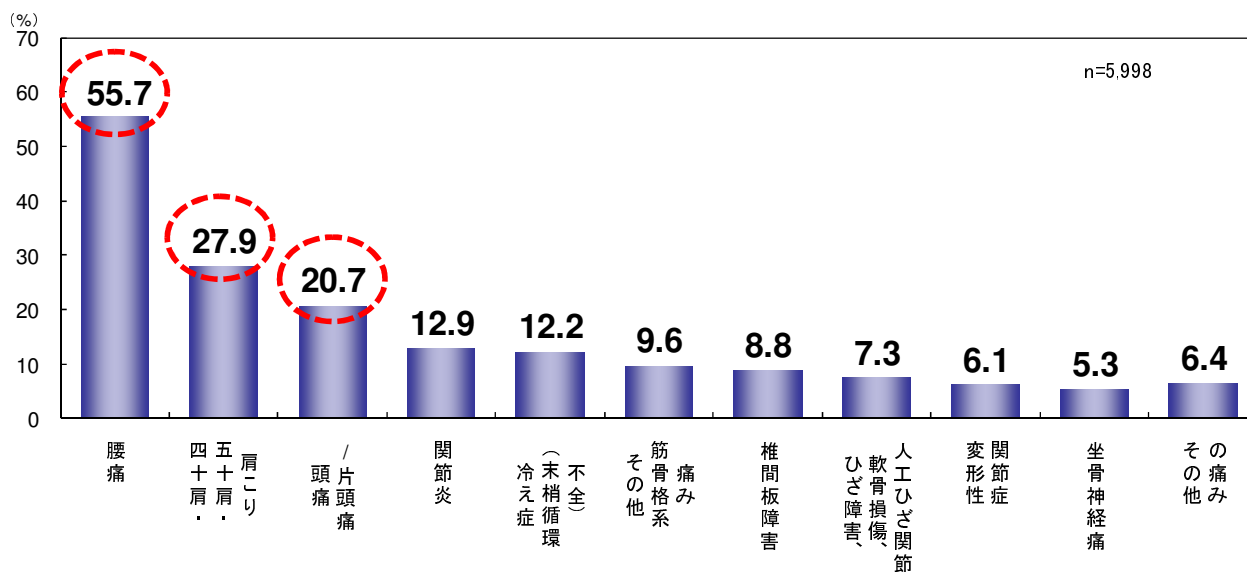
日本人口における慢性疼痛実態を推計する為、一次調査 n=41,597 サンプルのうち本人回答に限定した 40,000 サンプルに対し総務省統計 H21 年の成人人口 (102,901 千人) の構成比を参照し、拡大推計を行った。

(各年代別、男女別の構成比に拡大係数を乗し、全国平均値はウェイトバック処理にて集計)

慢性疼痛の定義に該当する人口数は、約 2,315 万人 (保有率 22.5%) であると推計された。

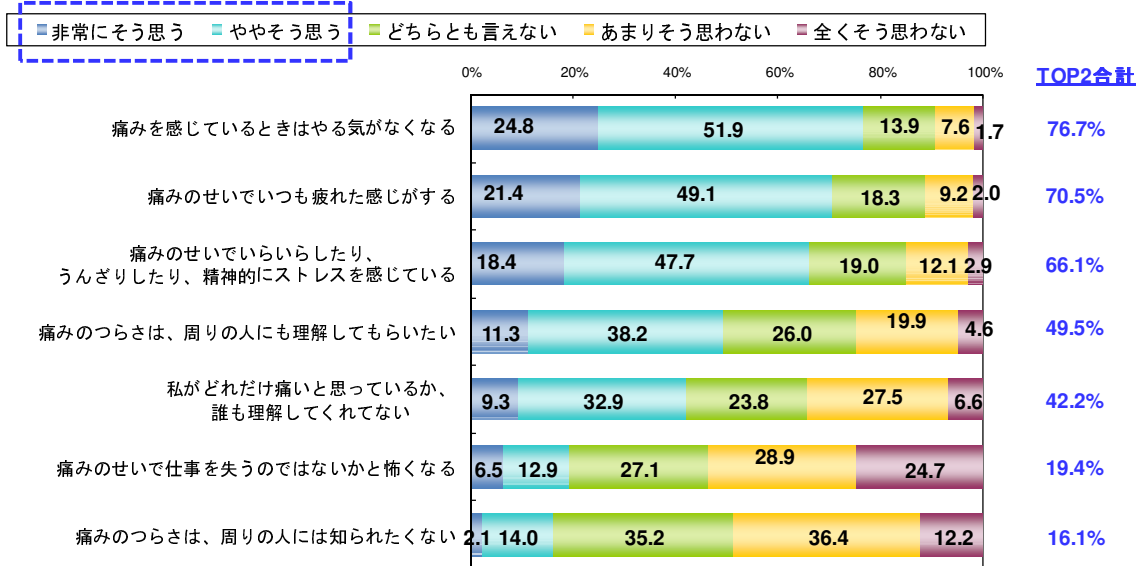
■痛みの病名・症状：慢性疼痛の原因となっている病名・症状は、腰痛 (55.7%)、四十・五十肩、肩こり (27.9%)、頭痛・片頭痛 (20.7%)

Q.その慢性的な痛みの原因となっている病名・症状について、わかる範囲で教えてください。



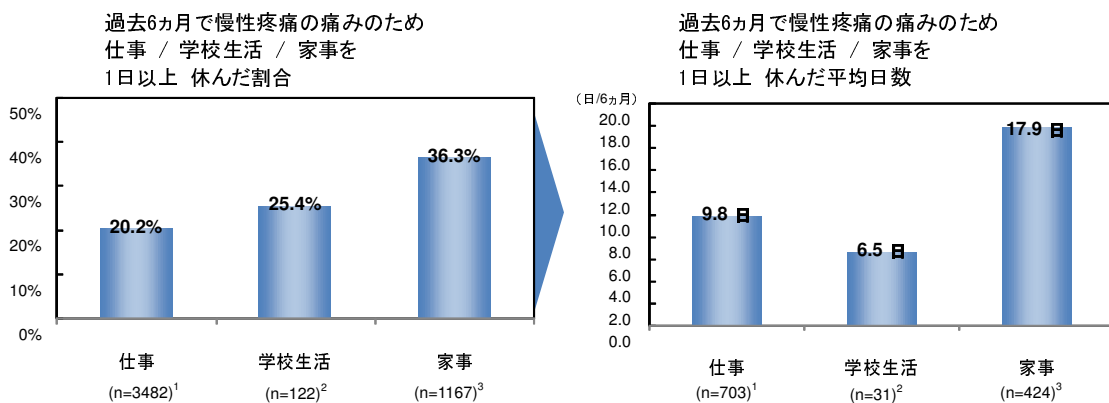
■**痛みに関する考え**：約7割の人が、やる気の喪失、精神的なストレスを感じている。

Q.その慢性的な痛みにより、あなたはどのように感じていますか。(n=5,998)



■**痛みによる日常生活の中断**：過去6ヵ月間で痛みのために休んだ日数は、仕事9.8日、学校6.5日、家事17.9日（1日以上休んだ人における平均日数）。

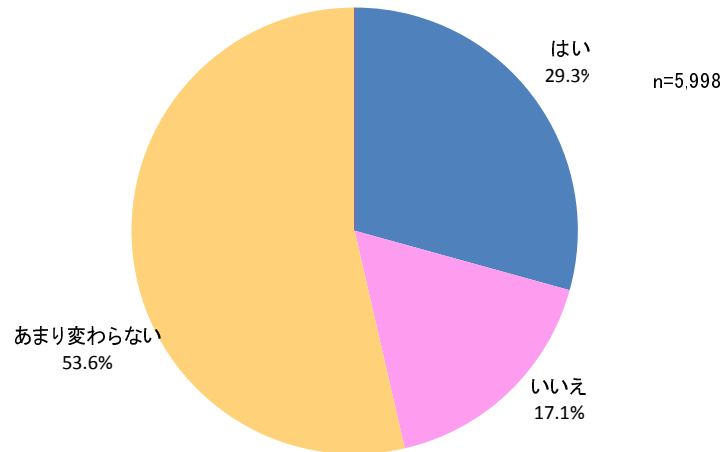
Q.過去6ヵ月で、その慢性的な痛みのために、仕事、学校生活、あるいは家事を「休む」、「早退する」といったことはありましたか？それぞれについておおよその日数を教えてください。



- 区別別に職業データから対象を限定。 ¹【仕事の対象】会社員、公務員、自営業、自由業、パート・アルバイト・契約社員、²【学校生活の対象】学生、³【家事の対象】専業主婦
- 日数の最大値を6ヵ月÷180日とし、それ以上は対象から除外

■**痛みは緩和されているか**：慢性疼痛をもつ患者の多くは、満足いく程度に痛みが緩和されていない（痛みが満足いく程度に緩和されているかの問いに対し、「はい」との回答は29%）。

Q.これまで様々な治療への試みの結果、あなたの慢性的な痛みは満足いく程度に和らいでいると思いますか。



■**治療意向**：7~8割の人が「しっかり治療したい」「新しい治療があれば試してみたい」と考えている。

Q.その慢性的な痛みに対して、あなたはどのように感じていますか。(n=5,998)

